

2022 年度 第 1 回 教育課程連携協議会 議事要旨

- 開催日時：2022 年 9 月 22 日（木）15 時 00 分～16 時 30 分
- 場 所：オンラインビデオ会議システムによる
- 出席者：山田学部長、山内理学療法学科長、辛島作業療法学科長
滋賀県健康医療福祉部 角野理事、滋賀県医師会 越智会長（委任状提出）
滋賀県理学療法士会 平岩会長、滋賀県作業療法士会 木岡会長（委任状提出）
東近江市地域包括支援センター 河島センター長
市立長浜病院リハビリテーション技術科 西村主幹（委任状提出）
滋賀県立リハビリテーションセンター 乙川主任主査
マキノ病院リハビリテーション科 杉原科長
- 陪席者：山川学長、垣尾キャンパス事務局長、中村センター長、岩崎センター長代理
丸山学生支援グループ長代理、吉田総務グループ係長
- 欠 席：山本副理事長兼学長補佐

1. 議 事

① 新任構成員の紹介

今年度より構成員として参加することとなった作業療法学科長 辛島より挨拶が行われた。

② 学長挨拶

開催に先立ち学長より挨拶が行われた。

- ・新型コロナウイルスの感染者数は世間と同じく過去最高となっているが、学校の業務に支障がない範囲である。
- ・本学に在籍する医師免許を持った教員を県内のワクチン接種会場に派遣した。
- ・東近江市との連携事業として昨年に引き続き、「いきいき生活プロジェクト」を実施している。今年度は会場を 2 つに増やして実施し、地域住民のフレイル予防についての学びの場を提供している。また、まちリハ事業にも、本学教員が参加し、地域住民の健康増進に本学もお手伝いをさせていただいている。
- ・次年度、本学として初めて最終学年の学生を迎える。実習においては本日参加されている構成員にもお世話になるかと思うのでよろしくお願いしたい。
- ・2024 年度には言語聴覚学科（以下「ST 学科」とする。）の設置、大学院の設置も検討しているので構成員の皆様からも貴重なご意見をいただきたい。

③ 2022 年度 前期 教育活動実施状況 報告

理学療法学科（以下「PT 学科」とする。）学科長 山内と作業療法学科（以下「OT」学科とする。）学科長 辛島より今年度前期の学生在籍状況及び学習状況、実習実施状況について報告が行われた

【平岩会長より】

びわこリハビリテーション専門職大学（以下「びわりハ」とする。）に限らず、他校においても指導者 1 名に対し、複数名の実習生を受け持つ状況が増えてきている。

そのよう中で学校の教員と学生間の連絡が希薄になっているように感じている。貴学には学生と細かなコミュニケーションをとり、フォローいただきたい。

【河島センター長より】

PT 学科 1 年生の見学実習において、地域住民の健康体操に関わっているとのことであるが、学生にとってはどのような学習効果があったと考えるのか。

【PT 学科長 山内より】

高齢者施設の入所者等との面談という位置づけで、健康体操に参加する高齢者と面談を実施した。学生は上手に参加者と面談を実施していたとの報告を受けている。

【杉原科長より】

今回の実習においてもびわりハの実習生を受け入れた。私どもの病院では実習生に症例発表の場を設けている。可能であればその場にびわりハの教員も入っていただき、ディスカッションしていただきたい。

【OT 学科長 辛島より】

とてもいい提案だと思う。全ての施設においてそのような場に参加することは難しいが、徐々に広げられたらいいと思う。

【PT 学科長 山内より】

PT 学科としても積極的に検討していきたい。

【乙川主任主査より】

学生の進路変更について、教員が常にアンテナを張って、学生の将来や思いを温かく見届けていってほしいと考える。

④ 将来構想について

「八日市キャンパス」について岩崎センター長代理より概要の説明が行われた。

- ・近江鉄道 八日市駅前の現八日市商工会議所を取得し 2024 年にキャンパスとして稼働させる。
- ・主に全学科の 1 年生及び ST 学科の 2 年生が使用する。

- ・教育・研究の場としての機能に加え、大学の本部機能を備えるとともに、地域連携の拠点となる機能を兼ね備える。
- ・東近江市中心市街地の活性化にも寄与する。

「言語聴覚療法学科の設置」について中村センター長より概要の説明が行われた。

- ・開設は2024年度を予定している。
- ・定員は近隣他府県のST養成校の定員設定と募集状況、本学既設のPT学科・OT学科の募集状況を踏まえ、PT学科70名、OT学科30名、ST学科20名とする。
- ・3種のリハビリ職を養成する学科を設置することにより、地域医療にますますの貢献に寄与できる。
- ・3職種間の多職種連携の教育も図れる。

「大学院構想」について山川学長より概要の説明が行われた。

- ・開設は早ければ2024年度開設を目指したい。
- ・高度な知識や能力をもったリハビリ職を養成することはもちろんのこと、公衆衛生や地域共生に携われる知識と技能をもった人材を養成していきたい。

「カリキュラム改正」について岩崎センター長代理より概要の説明が行われた。

- ・ST学科開設に合わせ、2024年度にPT学科、OT学科のカリキュラム改正を予定している。
- ・本会において意見のあった、IOT・ICTを学ぶ科目や公衆衛生を学ぶ科目等をカリキュラムに組み込む予定である。
- ・次回の本会において詳細なカリキュラム改正案をお示しする予定である。
- ・カリキュラム改正により実習時期がずれるため、本会構成員の所属先にもご理解とご協力をお願いしたい。

PT学科長 山内よりPT学科のカリキュラム改正においては専門職大学特有の展開科目について、偏りが見られるとの意見があり、地域共生や障がい者スポーツを学ぶ科目を取り入れる予定であるとの補足説明が行われた。

OT学科長 辛島よりOT学科のカリキュラム改正においては、学内実習科目において複数名の教員で学生に指導していけるようにする。座学が苦手な学生でも身体を動かしながら学ぶことで理解を深めることがあるので、丁寧に指導していきたいとの補足説明が行われた。

【乙川主任主査より】

ST 学科の定員設定については近隣他府県の募集状況を踏まえての設定であるのか。

PT 学科のカリキュラムについては障がい者スポーツへのリハ職の関わりは大きく、障がい者スポーツへの理解と携わっていける技能が教授できる科目を設定して欲しい。

OT 学科のカリキュラムについては、自身の学生時代の経験も踏まえ、身体を使った授業の方が将来の職に学んだことが繋がるのがより理解できると思うのでいい考えである。

【中村センター長より】

ST 学科の定員設定について、福井県の養成校では定員 30 名で、大阪府や京都府でも 30～40 名の定員設定となっており、いずれの学校も定員ギリギリの充足率か定員割れとなっている。

本学では定員充足とある程度のセレクションが可能である現実的な定員設定を行った。

【山内 PT 学科長より】

障がい者スポーツを学ぶ科目は 2 科目設定している。

また、積極的な学生は授業以外にもサークル活動やボランティアにて障がい者スポーツに携われる場を設けている。

【杉原科長より】

ST の重要性和需要を非常に感じている。

ST の認知度を上げる戦略をびわりハとともに考えていきたい。

【河島センター長より】

大学院においては公衆衛生や多職種連携等を高度に学んでいただき、地域包括ケアシステムの進化を推し進めていっていただけるような人材の輩出を期待する。

【平岩会長より】

ST が判断を誤ると対象者の障害が悪化する場合もある。しっかりとした知識と技能を習得し、対象者の状態を正確に判断し対応する人材を養成していただきたい。

【角野理事より】

ST 養成については行政としても期待している。ただし、高校生が ST についてはイメージが出来ていない。学校として PT・OT・ST について高校生に理解してもらうような活動を積極的に実施して欲しい。

現行のカリキュラムにおいては災害支援論の講義時間が多すぎる。新カリキュラムにおいては講義時間を絞っていただき、その分、公衆衛生や地域医療に係る科目の充実をお願いしたい。

以上